

〔要 約〕

近代中国における 「都市 農村間所得格差」と「差別的制度」

経済学部4年 船 田 幸 弘

現在約13億人を抱える世界一の人口大国中華人民共和国。1949年に毛沢東率いる共産党により建国されたそれは強固で集権的な社会主義を推進するが1979年頃より始まった改革により市場経済の導入、対外開放などその進路は徐々に市場化、国際化に向かい急激な近代化を進めてきた。その発展は目覚しく、ここ20数年間で年平均10%近くの経済成長を実現し今尚、急速な成長を続けているが同時に数多くの社会問題に直面している国でもある。

本稿ではそのような中国における巨大な所得分配の不平等、所得格差に焦点を当てた。さらにその中でも都市 農村間所得格差を主な研究対象としている。中国における所得格差は人為的に作られた制度的要因の占めるウェイトが相当大きい。その制度とは戸籍制度とそれと一体になった様々な各種制度からなる。さらにそこから作られた都市 農村間の断絶、二重社会構造などが所得格差を生み出す原因として挙げられる。これらを本稿におけるキーワードとして理論展開を行った。

新中国を建国から現在まで大きく2つに分けると社会主義を推進した毛沢東体制下の計画経済期と1980年初め頃からの国内の経済復興を目的として様々な改革が進められた改革・開放期に分けることができる。差別的制度の多くは計画経済期につくりだされ、今日に至っても存在している。中国における戸籍制度は1958年に公布・施行された「中華人民共和国戸口登記条例」と1964年の「戸籍移転規定」に基づいている。各個人はその住居地域において非農業戸籍（都市民）と農業戸籍（農民）という2つの戸籍身分にそれぞれ登録された。これ以降の中国において「農民」とは職業上のカテゴリーで

はなく、身分を表す用語となった。農業戸籍をもつ者の都市や街への移動は厳しく制限され、移住の自由は完全に奪われてしまい、都市と農村は完全に切り離され、二重社会構造が生まれた。また都市と農村すべての労働者は国家によって捕捉、管理され、個人の意思に関係なくそこでの労働を強制されてしまった。このことから経済発展に伴って当然行われるはずの産業間の労働力移動が全く行われず、都市と農村の所得格差はしだいに大きくなっていった。

また戸籍制度と組み合わせさせた教育、就職、医療、年金制度や都市民のみを対象とした生活物資の分配など農業戸籍者に比べあきらかに非農業戸籍者が優遇された各種制度が作りだされた。都市部における1つの企業を1つの単位とし、そこに属する非農業戸籍労働者とその家族は賃金のみならず食料をはじめとする生活物資の配給や住居、教育、医療などすべてにおいて依存していた。しかしながら農業戸籍者は指示された農産物を指示された量だけ生産し、低賃金で国へ供出せねばならず、尚且つ基本的に自給自足を求めた。医療、年金等の社会保障は受けられず老後も子女の世話にならざるを得なかった。以上のことから統計上には表われにくい大きな所得格差が存在したことが容易に想像できる。

改革・開放期に入り都市 農村間の移動の制限が緩和され始めると農村から都市へ移住や出稼ぎに出る農業戸籍者も出てきた。しかしながら戸籍転換が容易ではなかったため、非農業に従事するも戸籍は農業戸籍であるという者が数多く現れた。都市部における非農業戸籍者に有利な各種制度はまだ根強く残っており、同じ都市部で働きながらも従来の都市民と同じ公共サービスを受けられなかった。また農業戸籍者はその能力の如何にかかわらず条件の良い仕事に就くことはできなかった。こうしたことから都市内部における所得格差も広がっていった。戸籍制度はもはや非農業戸籍をもつ元来の都市民が利益その他を守っていく制度としてはたらくようになっていたのである。さらに市場化の導入に伴う国有企業の改革や完全雇用、終身雇用の瓦解により覆い隠されていた失業者が顕在化し、また都市へ流入してきた農業戸

籍者など都市階層の最も底辺は人であふれ、都市部の過剰な人口集中は深刻な問題となっていた。改革・開放期に入り戸籍制度の改革、特に人口移動の制限が取り除かれてきたことにより、これら新たな問題を引き起こしてしまった。この問題を受けて上海市や北京市など特大都市では市外出身者の流入を制限している。社会情勢の変化により戸籍制度が格差を生み出す要因となっている一方で結果として都市への人口集中を抑制し、そこから生じる問題の対応策となっていることも事実であり、戸籍制度の撤廃は容易ではない。中国中央政府はこのような大都市の人口集中という問題に対し、巨大な労働力移動を分散させるため、中都市、小都市を積極的に発展させ、それぞれの地域の発展を目指すという開発ビジョンを設けている。中都市に存在する企業の自主権を強め、周辺地域に対する指導力を持たせた。また小都市を積極的に発展させ、農村における余剰労働力の吸収に努めさせようとしている。

格差はどこにでも存在する。しかしその格差が人為的に創られ、個人の努力ではどうすることもできないものであるならば問題である。今日では戸籍制度をはじめ差別的制度の大々的な是正に着手されている。しかしそれは容易な課題ではなく、また中国の抱える問題は他にも数多く存在する。今後これらの問題にどう向き合い、どう対応、または是正していくのか、そこに注目していきたい。